

## 野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

---

### 2007 年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)概要

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他  
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2007 年 12 月 10 日(月)～12 月 12 日(水) 2 泊 3 日

場 所: 愛知県三の丸庁舎(愛知県名古屋市)

講師と科目: 福田道雄(カワウとウミウの生態の違いと識別)

: 徳田裕之(特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域保護管理)

: 羽澄俊裕(野生動物の管理と狩猟)

: 加藤七郎(滋賀県におけるこれまでのカワウ対策の取組について)

: 加藤ななえ(ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数調査方法)

: 清野昭彦(福島県カワウ保護管理計画について)

: 大森住夫(カワウ被害対策協議会と栃木県カワウ保護管理指針)

野 外 実 習: 弥富野鳥園(愛知県) 視察と個体数カウント

現地説明者: 愛知県弥富野鳥園管理事務所

: NPO 法人バードリサーチ

---

## (1) カワウとウミウの生態の違いと識別

東京都葛西臨海水族園飼育展示課  
福田道雄

ウの仲間の鳥は、乾燥地域と極地を除くほぼ全世界に分布している。その中でも特に、カワウは内陸部に進出したことで、ウ科の鳥の中でもっとも繁栄している種であるといえる。そのため、人間の活動が活発なるにつれて、文明の進んだ地域では減少し始め、地域によっては希少種のレベルに達してしまった。しかし、その後ヨーロッパでは1960年代から、日本でも1970年代後半から次第に増加に転じて、現在では各地の漁業を巡って人との間でさまざまな軋轢を起こしている。

一方、ウミウは極東アジアにのみ生息する鳥（英語では Japanese Cormorant と呼ばれる）で、カワウに最も近縁な種とされている。生息数は多くなく、その変動についてもあまりよくわかっていない。最近、カワウの有害鳥駆除時に捕獲された個体の中に、捕獲することはできない種であるウミウが混じていたことが何例かあった。従来、ウミウは内陸部に飛来しないとされていたが、明らかに冬期はウミウがカワウの群れに混じて、内陸部にも飛来し始めていると言える。そこで、カワウとウミウの生態を比較して、その差異について解説したい。合わせて、よく似た両種の識別方法について述べる。

両種の生態について、以下の点について比較した。

### 1. 生息地と個体数

カワウが世界各地に分布するのに対して、ウミウは極東アジアにのみ生息する鳥である。国内の生息数は、カワウは6万羽以上とみられるが、ウミウは数千羽以上とみられていて、個体数は多くない。

### 2. 繁殖習性

両種とも、安全な場所に集まって集団で繁殖する。ウミウは樹上営巣をしないが、カワウは安全であれば地上営巣をする。また、ウミウのコロニー規模は小さく、最大級のものでも数百個体程度とされている。

カワウの繁殖時期は、各地のコロニーによって異なり、2～7月に繁殖する場所が多い。ウミウは4～9月である。産卵・育雛・巣立ちなどについて、大きな差異はない。

### 3. 採食習性

ともに好んで食べる魚種はなく、その場、その時により食べやすい魚を採食する。

### 4. 野外での識別

近距離での観察または捕獲時には、背の雨覆羽がカワウは茶褐色で、ウミウは緑褐色であることから、容易に識別できる。しかし、成鳥羽でない個体は似ていて、大きさなどで見分けるしかない。

遠方での観察の場合は識別が難しく、上記の特徴に皮膚裸出部の形の違いなどを加えて、総合的に判別しなければならない。

平成19年度野生鳥獣保護管理技術者研修会

## カワウとウミウの生態の違いと識別

2007/12/10 愛知県三の丸庁舎

福田道雄  
(東京都葛西臨海水族園飼育展示課)



カワウ



ウミウ

## ウ科の鳥の世界的な分布

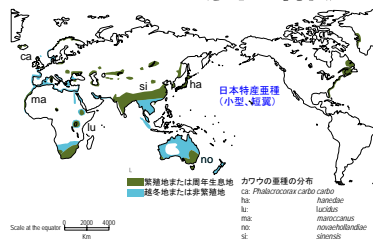


(Hoyo et al. 1992)

極地と乾燥地帯を除き、  
南極半島の一部から、  
全大陸の水辺に広く分  
布する。

ウ科の分類はなお研究段階で、主要な分類研究では、  
Peters (1931): 1属29種、van Tets (1976): 動物地理学的分析  
から5亜属34種、Siegel-Causey (1988): 骨学的な分析から9亜  
属37種に分類されているが、カワウの分類に関する異論はない。

## カワウの分布の特徴



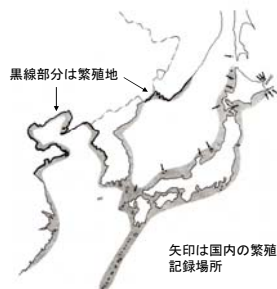
図III-1. カワウの世界的な分布。

(特定鳥獣保護管理技術マニュアル:カワウ編 2004に加筆)

カワウはウ科の中で最も繁栄した種

1. 内陸部への進出。
2. 多様な環境でさまざまな資源を利用。
3. 資源変動に影響をされ難い、冬期生残率を向上(特に、幼鳥の初回冬期)。

## ウミウの分布の特徴



Johnsgard (1993)

・アジア極東部に限定された  
生息域。

・国内繁殖個体数は2,000~  
3,000。北海道では年5-  
18%増加(綿貫 1996)。

・国外繁殖個体数は南東シ  
ベリアに16,000(Kuril島  
7,000、日本海沿岸部  
5,000、ピョートル大帝湾  
3,000、サハリン南岸100  
-150)(Litvinenko & SDhibav  
1991)。

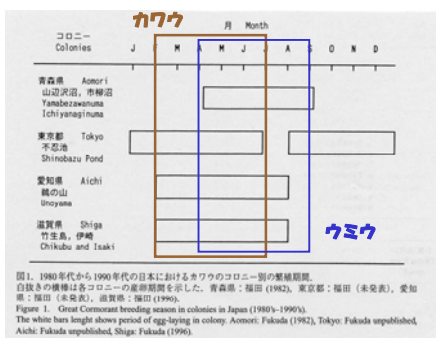
・黄海沿岸部は不明。



両種とも安全な場所に集団で  
繁殖する。カワウも地上部が  
安全であれば、地上営巣する。

ただし、ウミウのコロニーは最  
大規模でも数百個体を超える  
ものはない。

## コロニーによる繁殖時期の差異



(福田 2002)

## カワウの繁殖習性 〈不忍池の調査〉

### 1. 繁殖開始年齢

2~3歳。オスが1~6歳、メスが1~8歳で、オスが少し早い。

### 2. 産卵数と抱卵日数

約3個(1~6個)で、抱卵中の卵消失が多く、2~3個を約1ヶ月間雌雄交代で抱卵。

### 3. 巣立ち雛と巣立ち日数

繁殖成功した巣で、多くが1~2羽で、40~50日(樹上巣)で巣立つ。



さまざまな巣に就いている様子  
最上の巣:抱卵中。上から2と3番目の巣:産卵前。4番目:大きい雛の育雛中。最下の巣:小さな雛の抱雛中。

## ウミウの繁殖習性

### 1. 繁殖開始年齢

2-3歳以上?(成鳥羽でない個体も繁殖する)。

### 2. 産卵数と抱卵日数

約3個(2~5個)。抱卵日数は約34日間、雌雄交代で抱卵。

### 3. 巣立ち雛と巣立ち日数

巣立ち数は約2羽。40~50日で、巣から出始める。



(知床半島:「亀ノ爪権現の玄関」から引用)



(「私家宮城の野鳥」から引用)



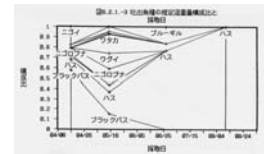
## カワウの採食習性

### 1. 採食活動

早朝に群れで行う集団で行う漁と、おもに午前中の単独で行う漁を使い分ける。

### 2. 採食場所と情報伝達

採食しやすい場所に集まる。情報が伝わる。



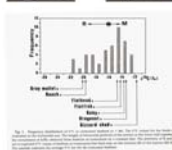
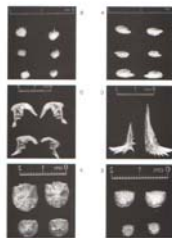
(水谷 1996)

### 3. 採食漁

おもに底性魚で、放流漁を食べに集まることも多い。好む魚種は決まってない。その時、その場で採りやすい魚を食べる。

### 魚種の同定

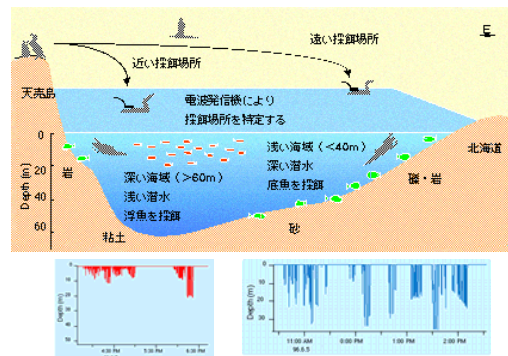
- 1) 目視-チャンスが少ない。
- 2) 胃内容物-消化によって変化する。
- 3) 吐出物-瞬かコロニー内でしか採取できない(多くが雛から)。
- 4) ベレツトから判定(咽頭骨、耳石、鱗などから)
- 5) 安定同位体比による解析-魚類の生息域を推定。



(Mizutani et al. 1990)

## 育雛中のウミウの採食行動

(国立極地研究所大型海洋動物研究グループの活動HPから)



## ウミウの採食魚

- 北海道天売島(繁殖地:吐き戻し)  
イカナゴ、マイワシ、ホッケ、カタクチイワシ
- 神奈川県城ヶ島(越冬場所:胃内容物)  
オキタナゴ、ムギイワシ、ゴンズイ
- 茨城県十王町(越冬場所:吐き戻し)  
セグロイワシ、ハモ、イシモチ、ウミタナゴ、  
アイナメ
- 秋田県象潟(越冬場所)  
ギンポ、ハタハタ

### まとめ

- 生活場所で、付近の海域の表層から  
海底までの広い範囲で採食活動する。
- 好む魚種がある可能性は低い。

## カワウとウミウの識別

## 大きさの違い

### 1. 全長と翼長

カワウ: 80-90cm、30-36cm

ウミウ: 84cm、31-35cm

### 2. 体重

カワウ: 1.4-2.4kg

ウミウ: 2.6-3.3kg (オスがメスより  
20%重い)。

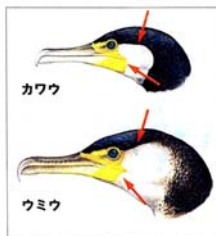


## 両種の主な識別点



「箕輪(2007)海鳥識別ハンドブック」から

## 環境省 カワウとウミウの見分け方



### 【頭部における識別ポイント 成鳥・結晶に共通】

○カワウ  
くちばしの基部の黄色い斑は口角で尖らない。  
頬の白色部は、目の後方にぼさぼさ広がる。

○ウミウ  
くちばしの基部の突出部が小さく、口角で三角形になる。  
頬の白色部は、目の後方から斜めに上がる。



【全身の識別ポイント 成鳥の場合】  
○カワウ  
上面に黄色光沢がある。  
○ウミウ  
上面に暗緑色光沢がある。  
※上面の色相は光の状態により異なって見える場合がある。

イラスト 実体撮影  
(※)カワウとウミウは酷似しており、また、成鳥と幼鳥、季節で異なるなどするため、上記赤矢印の識別ポイントを参考に、慎重に判断してください。

## カワウの幼鳥の羽色変化

### カワウ

孵化した翌年の換羽期(6-8月)に成鳥と同じ  
暗茶褐色の羽色となる。

### 秋・冬孵化の個体(不忍池や森林公園)の換羽

12月20~31日以前孵化の個体は翌年の換羽期に1年未満で換羽。以降孵化の個体は1年半以上後に換羽。12月20~31日の間の孵化個体は、個体によってどちらかになる。





## ウミウ

年齢で暗色化し、孵化後4年目に成鳥羽となる。



3歳

2歳

1歳

(十王町一村一文化創造事業推進委員会 2000)



ウミウ幼鳥:横顔と頸から胸の羽色。体の大きさの違い。



ウミウ亜成鳥(2歳):顔の模様。まだ、兩覆は同じ。

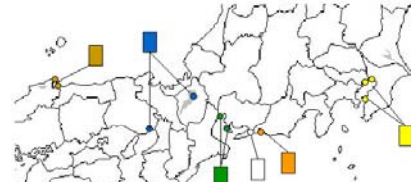


ウミウ成鳥:背の光沢。体の大きさ。横顔の模様の違い。



ウミウ成鳥:羽色の光沢。横顔の模様の違い。

## 日本でカワウにカラーリングを装着しているコロニー



(カラーリングには英字、数字、模様などの記号が彫り込まれている)

連絡先: 日本鳥類標識協会カラーマーキング登録委員会(山階鳥類研究所標識研究室気付)  
カワウ登録担当者: 福田道雄 mogufuku@beige.ocn.ne.jp  
カワウ標識調査グループ <http://www6.ocn.ne.jp/~cring973/>

標識の付いたカワウの回収時に死体提供依頼  
年齢既知個体を用いて、年齢推定法の開発研究のために収集